

## 日本学術会議(第26期)第1回物理学委員会物性物理学・一般物理学分科会議事要旨

日時: 令和6年1月31日(水)10:00~12:00

会場: オンライン会議(ZOOM)

出席者: 腰原伸也、常行真司、森 初果、網塚 浩、家 泰弘、石坂香子、板倉明子、伊藤公孝、大友季哉、香取浩子、木村芳文、清水祐公子、白濱圭也、新永浩子、高須昌子、高安美佐子、瀧川 仁、寺崎一郎、所 裕子、中村浩章、西野吉則、根本香絵、野尻浩之、林久美子、早瀬潤子、藤澤彰英、細越裕子、松尾由賀利、松田 巖、南谷英美、村尾美緒、森吉千佳子、柳瀬 陽一、吉田善章、笠 潤平 (35名)

欠席者: 伊藤公平、兒玉了祐、五神 真、美濃島薫 (4名)

議題に先立ち、議事要旨作成のため会議を録画することが承認された。

### 議題

1. 日本学術会議の組織と物性物理学・一般物理学分科会の設置について(資料1, 2, 3)
  - ・世話人の常行委員より物理学委員会及び分科会、小委員会の位置付け及び活動内容についての説明があった。
2. 委員長、役員を選出
  - ・森委員、腰原委員より委員長として常行委員が推薦され、満場一致で承認された。
  - ・常行委員長から副委員長として寺崎委員、幹事として藤澤委員、石坂委員が指名され、満場一致で承認された。
3. 第25期第5回物性物理学・一般物理学分科会議事要旨の確認(資料4)
  - ・第25期第5回分科会議事要旨が確認された。
4. 学術会議の状況報告
  - (1) 物理学委員会
    - ・腰原委員より状況報告があった。学術会議の今後については国から改革の要請があり、12月9日に日本学術会議第26期アクションプラン骨子を発出したところである。この中で、学術会議の助言機能や情報発信機能などの強化、ナショナルアカデミーとしての国際的プレゼンスの向上、国民とのコミュニケーションの促進などが打ち出され、改革に向けた活動が行われている。これを受けて、提言等を取りまとめるにあたっては他分野との関連を含む広い視点がより重要視され、また分科会設置に関してもより慎重な議論が必要とされるようになった。これに沿って物理学委員会も活動し、今期の分科会設置が行われた。物性物理学・一般物理学分科会は20名を超える委員数(39名)の多さが問題となったが、分野の多様性や重要性に応じた必要な規模であるとの説明により無事設置された。

## (2) 法人化問題

・常行委員長より状況報告があった。12/22の内閣府特命担当大臣決定「日本学術会議の法人化に向けて」では、学術会議の独立性を担保するため法人格とすることに加え、会員選考、財政基盤及びガバナンス強化などに関する考え方が示されている。また、同日12/22に日本学術会議会長から発出されたメッセージでは、今後法人化にともなう懸念を解消してゆく必要性に加え、アクションプラン骨子に基づき改革に取り組んでゆく旨が示されている。

・腰原委員より学術会議の現状の予算や財政状況に関する補足説明があった。

## (3) その他(第三部、科学者委員会)

・森委員より科学者委員会の5分科会の状況報告があった。

・25期から「未来の学術振興構想」の策定を始め、提言として取りまとめた。今期も「未来の学術振興構想」提言の継続が検討されており、担当の学術研究振興分科会の委員が決定したところである。今期はグランドビジョンを追加するとともに、ビジョン実現のための学術研究構想をより充実化させるという課題の申し送りが25期からなされている。

・ジェンダー・エクイティ分科会では第6次男女共同参画基本計画に向けて提言を出すことが課題となっている。

・学協会との関係を見直すことを目的として学協会連携分科会が発足した。

・学術体制分科会では研究インテグリティに関する活動が行われている。

・研究評価分科会が発足し、分野によって異なる評価軸、若手が評価に過度に振り回されずに研究を続けるための方策等について検討される予定である。

・腰原委員より、25期には内閣府からの要請で研究力強化について総合的に検討する委員会があったが、今期はそこで上がった課題が個別の分科会に戻され議論されるという背景の説明があった。

・森委員より科学的助言等対応委員会の状況報告があった。25期は提言7件、見解37件、報告25件、回答3件、計72件が出された。査読が学術会議全体できめ細やかに行われるようになり、質がよくなった印象がある。25期には物性物理学・一般物理学分科会からプラズマサイエンスとハイパワーレーザーの見解を出すことができた。今期出そうと思っている方は準備してほしい。

## 5. 第26期物性物理学・一般物理学分科会の活動に関する意見交換

### (1) 意思の表出(提言、見解、報告など)

・25期は主に「未来の学術振興構想」への対応に追われ、上記2件の見解以外に物性物理学・一般物理学分科会が関連する意思の表出はなかった。研究力強化や研究評価に関して、物性や一般物理の分野にフォーカスする形で、ボトムアップ的に意思の表出を検討するような議論を考えてもよいのではないかとの意見があった。

(2) 学術フォーラム、公開シンポジウム

・25期は未来の学術振興構想に関する意見交換会などが開催された。今期はより広い研究分野の参加者が集まるような意見交換会を企画するとよいのではないかと意見があった。

・カーボンニュートラルに関する公開シンポジウムについて、総合工学委員会との合同で水素エネルギーに特化したシンポジウム開催の提案があった。シンポジウムの企画に際しては化学委員会との連携、キーパーソンを集めた企画検討、学会ではなく学術会議ならではの意義、例えば社会科学的な視点を入れることなどの重要性が指摘された。今後は関係する委員で議論を詰めてゆくことになった。

・物理学委員会の方でも物理学全体を俯瞰するようなシンポジウムを検討している。素粒子原子核分野も合わせて、特に大型施設利用に関連したテーマ、社会課題解決を鑑みた基盤研究を積極的に入れてゆく方針であり、今後進捗すれば各分科会に協力の要請が来ると思われる。

(3) プラズマサイエンス小委員会

・吉田委員から状況説明があり、意見交換が行われた。第25期に見解を発出して小委員会としての活動は終了したところであるが、今後は学術会議から求められているフォローアップを進めていく。活動の形態やメンバーはこれから検討する予定である。

・今後の活動の必要に応じて物性物理学・一般物理学分科会のもとワーキンググループを作ってもよいのではないかと意見があった。

(4) その他の分野別委員会、分科会等との連携活動

・物理学委員会 物理教育分科会

新永委員より物理教育分科会の発足と活動目的について説明があり、意見交換が行われた。現在11名の委員が在籍し、特に従前から指摘されていた女子生徒の理工系への進学阻害要因にフォーカスした活動を予定している。数学教育分科会の木村委員からも同じ問題意識が共有され、分野を跨いだ連携の可能性が挙げられた。

・物理学委員会・総合工学委員会合同IUPAP分科会

藤澤委員よりIUPAP分科会の発足と活動目的について説明があった。IUPAPメンバーのうち学術会議会員・連携会員がこの分科会委員となり、他の方はオブザーバーとして参加している。今期の主な活動は、今年任期改選となるIUPAPメンバーの日本からの推薦である。

・カーボンニュートラル(ネットゼロ)に関する連絡会議

板倉委員より状況報告がされた。今後予定している公開シンポジウムの検討状況など、進捗があり次第情報共有される。

・総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会 ハイパワーレーザー技術と高エネルギー密度科学小委員会

吉田委員より状況報告がされた。25期には大型パワーレーザー施設の実現と国際的

な中核拠点の構築に関する見解を提出し、小委員会はこれをもって収束する予定。

- ・ 化学委員会・物理学委員会合同結晶学分科会  
第1回委員会が3月22日に開催される予定。状況に応じて連携を模索する。
- ・ 化学委員会 物理化学・生物物理化学分科会  
第1回委員会が3月22日に開催される予定。状況に応じて連携を模索する。

#### 6. 新メンバーの追加について

山口浩司氏 (NTT物性科学基礎研究所)、陰山聡氏 (神戸大学) の物性物理学・一般物理学分科会委員就任について審議があり、2名とも分科会委員として幹事会に推薦することが承認された。

#### 7. 物性委員会幹事会への幹事推薦について

森委員と常行委員を幹事として推薦することが提案され、満場一致で承認された。

#### 8. その他

##### (1) 議事要旨の取扱いについて

・議事要旨は幹事が作成し委員長が確認したものを配布して委員に意見をいただく。委員が確認したことが明らかになった後、承認については委員長に一任する。ホームページ用と詳細版を作成する。

##### (2) メール審議とメールアドレスの取扱いについて(参考資料1, 2)

・今後のメール審議のため委員の間でメールアドレスを共有することが承認された。

### 分科会資料

- 資料 1 物性物理学・一般物理学分科会 委員名簿
- 資料 2 物性物理学・一般物理学分科会 設置提案書
- 資料 3 学術会議の組織
- 資料 4 第 25 期第 5 回物一分科会議事要旨
- 資料 5 物理学委員会委員(物一分科会委員)

参考資料 1 委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン

参考資料 2 メール審議の実施について